

新学術 ”宇宙の歴史をひもとく地下素粒子原子核研究” 研究会内  
B02 班（方向感度を持つ検出器による暗黒物質探索）第 3 回若手研究会

5 月 17－18 日 神戸大学

新学術”宇宙の歴史をひもとく地下素粒子原子核研究” B02 班主催の若手研究会を行いました。

参加者 29 名

参加大学 神戸大、東京大、東北大、福井大、早稲田大、京都大、名古屋大

プログラム

17 日 場所：神戸大学百年記念館 六甲ホール

[中性子検出セッション]

招待講演 1 清水格(東北大, KamLAND) :「中性子検出について」

鷲見貴生(早稲田大, ANKOK) 「ANKOK 実験における中性子測定」

[環境中性子セッション]

招待講演 2 南野彰宏(京都大, AXEL) 「神岡地下での中性子測定」

森下美沙希(名古屋大) 「DAMA 実験における中性子バックグラウンドの季節変動 1」

久野光慧(名古屋大) 「DAMA 実験における中性子バックグラウンドの季節変動 2」

18 日 場所：神戸大学 瀧川記念学術交流会館

[中性子反応セッション]

招待講演 3 中島恭平(福井大, CANDLES) :「中性子起源の  $\gamma$  線バックグラウンド」

横山寛至(早稲田大, ANKOK) 「アルゴン中の U 系列核種の量と時間依存性の測定」

鈴木優飛(早稲田大, ANKOK) 「アルゴン中の  $(\alpha, n)$  反応について」

内容：

第 3 回は、「中性子バックグラウンド」をお題として、実際の実験における中性子の影響や検出法について議論しました。

招待講演では、清水格さん、南野彰宏さん、中島恭平さんの 3 名をお招きして、「宇宙線ミューオンによる中性子バックグラウンド」、「神岡地下での中性子フラックスの定量的な測定」、「環境中性子の  $(n, \gamma)$  反応による  $\gamma$  線バックグラウンド」について、それぞれお話ししていただきました。学生による発表では、自分が興味を持った他の実験や自分が所属する実験で、中性子がどのように、またどの程度バックグラウンドになっているか(なり得るか)についての活発な議論が交わされました。

1 日目 神戸大学百年記念館  
六甲ホールにて

